

No. 1409

「自由貿易」を前面に

—オタワ・サミット—

西側経済の回復を図り、政治的連帯の強化をめざす第7回先進国首脳会議が7月20日からカナダのオタワで開催された。第1回全体会議で日本の鈴木首相が発言の口火を切り、サミットの実質討議に入った。会議では、インフレ、失業、不況の三重苦に直面する西側経済の回復策について協議を重ねた。わが国は「西側の相互依存と連帯を求める」のを基本姿勢とし、自由貿易を前面に押し出した。4回にわたって行なわれた全体会議を終え、22日、政治色を一層強めたオタワ・サミットは共同宣言を採択、このあと七ヶ国首脳がそろって合同記者会見し、西側の連帯と協調が合意されたことを高く評価した。

大自然に生きる

—世界の爬虫類展—

“生きている恐竜の子孫を見よう”と、今、東京・池袋のサンシャインシティでは「世界の爬虫類展」が開かれています。何億年ものむかし、太古の地球上を制圧していた恐竜たちは、今どうしているのでしょうか？ “ペットにしたい”というチビ子。アマゾンの大イグアナ、放し飼いのヘビ島など、ジャングル構成による展示が夏休み中の子供たちの人気を呼んでいます

教科書レポート

来年4月から高等学校で使われる新しい教科書がこのほど文部省の検定を終えて出そろった。「ゆとりと充実」を旨として実施される学習指導要領の改定に伴う今回の検定は9年ぶりの大幅な衣替えとなった特に自民党などによる「教科書偏向批判」の動きのなかで進められたこともあって検定はこれまでにない厳しさのなかで行われた。新設科目の「現代社会」については憲法9条や自衛隊、原発問題、公害などのテーマを中心に申請された16社の21点すべてが修正あるいは改善を求められた。なかには400箇所をこえた教科書もあった。丸木夫妻作「原爆の図」は「教師と子供の碑」に変わり、高木敏子さんの「ガラスのうさぎ」の引用は消され、悲惨な戦争体験は影をひそめた。違憲、合憲論が今なお続く自衛隊はその合法性を印象づける記述が求められた。憲法9条についても改善がすべてに求められ、トーンダウンした。防衛費の記述ではその増加を示すグラフに国家予算に占める推移が加えられ、防衛費増大の印象が逆転した。原子力発電の項では米国のスリーマイル島の事故を報道する写真説明のなかで不安のたえないという説明から単なる新聞記事の説明にかわった。いまなお苦しむ公害患者たち。21点の「現代社会」の教科書全部から、公害の加害企業名は消され、四大公害裁判の図表はすべてイニシアルとなった。石牟礼道子さんの「天の魚」のなかでは企業名が点線に替えられた。政財界が展開してきた「偏向教科書批判」を受け入れた形となった今回の教科書検定。国が思想の統制する「検閲の時代」が再びやってくるのだろうか。